

「みんなのCan-doサイト」を利用した 初級講座シラバスの改定

— CEFRからJF日本語教育スタンダードへ —

磯村一弘・三矢真由美
(国際交流基金ケルン日本文化会館)

この発表の目的

初級日本語講座における
シラバス改定の実践の報告

「文型シラバス」



「Can-doシラバス」

コミュニケーション場面における課題遂行

Can-doシラバスへの改定

「課題遂行」を目標にするが、

- ・教科書はそのまま『みんなの日本語』
→各課の学習項目は生かす
- ・各クラスのレベルをCEFRの基準で明確化
→適切なレベルの目標設定

JF日本語教育スタンダード
「みんなのCan-doサイト」
を使った実践例

ケルン日本文化会館の講座概要

9つのレベル

Oberstufe
Mittelstufe 3
Mittelstufe 2
Mittelstufe 1
Grundstufe 5
Grundstufe 4
Grundstufe 3
Grundstufe 2
Grundstufe 1

レベル(Stufe)1~5=初級
主教材:『みんなの日本語』

(旧) 教科書にもとづいた文型シラバス

- Stufe 1: 『みんなの日本語』第1課～第10課
- Stufe 2: 『みんなの日本語』第11課～第20課
- Stufe 3: 『みんなの日本語』第21課～第30課
- Stufe 4: 『みんなの日本語』第31課～第40課
- Stufe 5: 『みんなの日本語』第41課～第50課

- ・基本的には教科書をそのまま進める形
- ・各Stufeのレベル記述
=教科書の課をどこまでやったか

(新) 課題遂行を目標とした記述

- ・日本語を使って、どんなコミュニケーション場面で
何がどのくらいできるようになるか？

→具体的な場面を想定したCan-doによる目標記述

(例)『みんなの日本語』第4課

～は一時から一時までです
(『みんなの日本語』提出項目)
時刻、曜日、及び簡単な日常の行動が言える
(『みんなの日本語』言語行動目標)

知っている店の営業時間や定休日について、
友人に教えることができる。

(新) CEFRのレベルに基づいた記述

- ・StufeごとのレベルをCEFRの基準により定義
- 各Stufeのレベルに合ったCan-do目標を設定

Stufe 5	A2~B1
Stufe 4	A2
Stufe 3	A1~A2
Stufe 2	A1
Stufe 1	0~A1

A2レベルのCan-do目標

A1レベルのCan-do目標

具体的なシラバス改訂の実践 (1)

<第一弾>

CEFRの能力記述文を元にした
Can-doシラバスの作成

「ケルンシラバス」

国際交流基金(2009)
『JF日本語教育スタンダード試行版』

CEFRを元にしたシラバス改訂

各StufeとCEFRのレベルの関連づけ

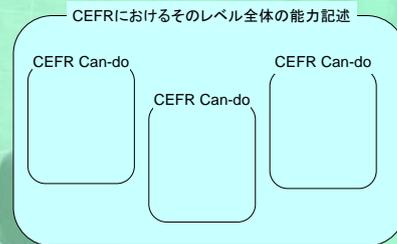
Stufe X = CEFRの〇〇レベル



CEFRを元にしたシラバス改訂

そのStufe全体の学習項目をイメージ

Stufe X = CEFRの〇〇レベル



『みんなの日本語』
×課～×課

- ・学習項目
-

CEFRを元にしたシラバス改訂

具体的なCan-doリストの作成

Stufe X = CEFRの〇〇レベル



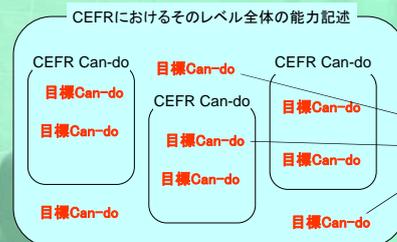
『みんなの日本語』
×課～×課

- ・学習項目
- ・学習項目
- ・学習項目
- ・学習項目
- ・学習項目
- ・学習項目
-

CEFRを元にしたシラバス改訂

目標Can-doの各課への割り振り

Stufe X = CEFRの〇〇レベル



第×課

目標Can-do

目標Can-do

目標Can-do

CEFRを元にしたシラバス改訂

各課の目標をCan-doという課題遂行能力で記述



学習項目の文型を、コミュニケーション言語活動と結びつけられる



教室活動にも変化

CEFRを元にしたシラバス改訂

<困難点>

CEFRの能力記述文のみを元にしたため、

- ・膨大で抽象的なCEFR記述文から具体的な目標Can-doを考える作業は、負担が大きい
- ・目標として考えたCan-doが、本当にそのレベルで適切なのかどうかを検証しにくい
- ・Can-doによって抽象度が異なる／具体的目標とするにはまだ抽象度が高い

具体的なシラバス改訂の実践 (2)

<第二弾>

JF日本語教育スタンダード(JFS)と「みんなのCan-doサイト」を使ったCan-doシラバスの作成

JF日本語教育スタンダード

- ・2010年に発表
- ・レベル記述はCEFRのものをそのまま利用
- ・そのレベルでは、日本語を使ってどんな場面で何がどのぐらいできるかを具体的な例を挙げて記述

データベースのWEB利用

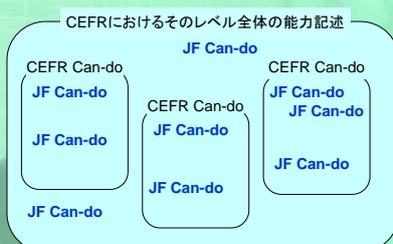


「みんなのCan-doサイト」

JFSを使用したシラバス改訂

各レベル(Stufe)とCEFRのレベルの関連づけ

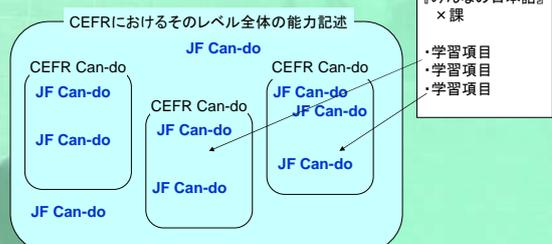
Stufe X = CEFRの〇〇レベル



JFSを使用したシラバス改訂

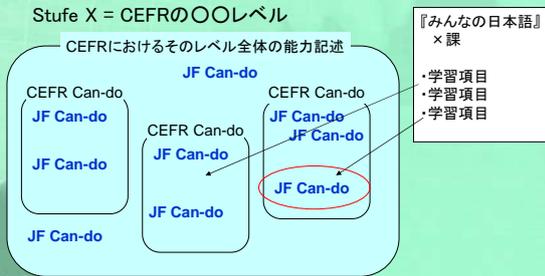
各課の言語項目からCan-doをイメージ

Stufe X = CEFRの〇〇レベル



JFSを使用したシラバス改訂

「サイト」で検索し、目標にあったJF Can-doを選択

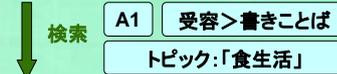


JFSを使用したシラバス改訂

「サイト」で検索し、目標にあったJF Can-doを選択

(具体例)

- ・Stufe 1 (レベル=A1)
- ・学習項目「～は一時から一時までです」

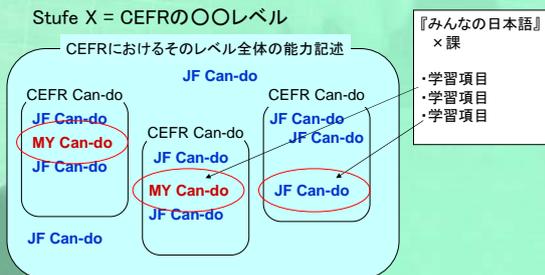


JF Can-do

お店やレストランの前にある看板や表示を見て、営業時間や定休日など、ごく基本的な情報を探し出すことができる。

JFSを使用したシラバス改訂

適当なJF Can-doがない項目は、MY Can-doを作成



JFSを使用したシラバス改訂

適当なJF Can-doがない項目は、MY Can-doを作成

JF Can-do

CEFRのレベルに基づいて、日本語を使ってどんなコミュニケーション場面で何がどのくらいできるかを示した具体例

→ 全ての言語活動を網羅的に記述することはできない

JF Can-doの記述がない言語活動

→ MY Can-doを作成して記述

JFSを使用したシラバス改訂

適当なJF Can-doがない項目は、MY Can-doを作成

(具体例) 学習項目「～は一時から一時までです」

JF Can-do (A1)

駅員に目的地までの切符の値段をたずね、まわりの騒音が少なく、ゆっくりとはっきりと話されれば、答えを理解することができる。

MY Can-do (A1)

日本料理店に電話をして、営業時間について質問し、ゆっくりはっきり答えてくれれば、ごく基本的な情報を理解することができる。

JF Can-do (A2)

店に電話をして、道順や目印などについて質問し、いくつかの簡単な答えを理解することができる。

JFSを使用したシラバス改訂

各課の目標Can-doとして記述

Stufe X = CEFRの〇〇レベル



JFSを使用したシラバス改訂

CEFRの記述文のみを参照する作業と比較して、

- ・具体的な言語活動を記述したJF Can-do
→目標とすべきCan-doが考えやすい
- ・抽象的なCEFRのレベル記述
→具体的なJF Can-doと媒介とすることで
レベルの照合がしやすい

結論

- ・文型中心の教材を用いながらも、
- ・CEFRなどの具体的なレベル記述に基づいた、
- ・課題遂行能力によるシラバスを立てる場合、

「JF日本語教育スタンダード」
およびそのWEB版
「みんなのCan-doサイト」が
役に立つ！